

## 観光案内所に九州アイデンティティ

### (背景)

初めての九州、いや初めてでなくとも旅人はターミナル駅を降りると観光案内所を訪れる。直近の地元情報を取り入れ豊かで無駄のない旅をするためであるが、案内所には行政のもの、観光協会のもの、鉄道会社やバス会社、タクシー会社のものなどいろいろあるのが現状である。盛んな観光地のターミナル駅ほどその傾向が強い。しかし実際に現地の駅を降りてみると、名称はおろか、場所もまちまち、看板もまちまちな上、それらが揃っているところと欠けているところがあるなど見つけにくく分かりにくいのが実情である。中には物産販売店を兼ねているものもあるので余計分かりにくくさせている。

### (内容・効果)

九州アイデンティティあるいは九州デザインとして、観光案内所とひと目で分かるような色とかロゴマークとか、看板とかの基準化を図り、それを決められたところ、目立つところに掲げるなどして利用者の利便性を格段にアップさせてはどうだろう。使う色彩として阿蘇山や桜島があるので赤色は欠かせないし、海を表す青、森を表す緑は欠かせないなど、九州と想像するだけでわたしにもイメージが豊かに湧いてくる。

列車を降り改札口を出た旅人が「あっ、あそこにある」の言葉がとっさに口をついて出てくるようになれば、結果として観光にかける九州全体の意気込みを感じさせ、旅人の好感度が確実にアップする。九州デザインとして統一を図る看板の色や表記文字などについてのアイデアや実際のロゴマークなどについて公募で行えばいい宣伝にもなる。